

帝國的編成に抗して

—沖繩をめぐるジェンダー化、人種化、民族・国民化の
図式とその亀裂

宮城晴美 (琉球大学等非常勤)

「集団自決」と家父長制の論理～座間味島を事例に

徳田匡 (和光大学非常勤)

「優生思想と戦後沖繩」

ディスカッサント

新城郁夫 (琉球大学)

松田潤 (言語社会研究科)

司会 井上間従文 (言語社会研究科准教授)

日時：2014年1月25日(土) 午後2時～6時

一橋大学言語社会研究科 5F 共同3 教室

入場無料、予約不要

科研費基盤 (B) ポスト太平洋戦争の「英米文学」研究—トランスパシフィックな文学的想像力と政治学
問い合わせ：m.inoue@r.hit-u.ac.jp

講師・ディスカッサント 略歴

宮城晴美 沖縄女性史家。琉球大学等非常勤講師。雑誌記者・編集者を経てフリーランスライターに。

『座間味村史』(全3巻)の執筆、編集に携わる。その後那覇市役所に勤務し、『なは・女のあしあと』(那覇女性史前近代～戦後編。全3巻)を編集・刊行。那覇市歴史資料室への異動後、『那覇市史』戦後篇の編集に携わる。4年前に那覇市歴史博物館を定年退職。主な著書に『新版 母の遺したもの』(高文研)、共著に『戦争記憶の継承—語りなおす現場から』(社会評論社)、『沖縄の占領と日本の復興—植民地主義はいかに継続したか』(青弓社)、『沖縄・問いを立てる4 友軍とガマ—沖縄戦の記憶』(社会評論社)等多数。

徳田匡 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程。和光大学非常勤講師。社会学、戦後沖縄思想。共著として『沖縄・問いを立てる—6 反復帰と反国家』(社会評論社)、『音の力 沖縄アジア臨界編』(インパクト出版会)、『占領者のまなざし 沖縄/日本/米国』(せりか書房)、論文に「〈占領〉とカラー写真—東松照明と島々」(『現代思想』、2013年5月臨時増刊号)など。

新城郁夫 琉球大学教授。沖縄近現代文学・日本文学、ポストコロニアル批評、ジェンダー研究。著書に『沖縄文学という企て』(インパクト出版会)、『到来する沖縄』(同)、『沖縄を聞く』(みすず書房)。

松田潤 一橋大学言語社会研究科博士課程後期。沖縄近現代文学・思想史。日本学術振興会特別研究員(DC)。論文に「「復帰」への抵抗の思想の文学：新川明、清田政信、中屋幸吉を読みなおす」(一橋大学修士学位論文、2013年)。